住民巻き込む美化活動とあいさつ運動で育む島のおもてなしの心

特別賞 協会会長賞　沖縄県 伊平屋村立伊平屋中学校

沖縄県の最北端にある有人島で、東シナ海に浮かぶ伊平屋島。伊平屋ブルーと称される海と手つかずの自然が残る島には、神話や伝説が息づき、伝統文化が継承されている。その島を「自分たちの手で守ろう」という思いから生徒が自主的に始めたのが「地域へのあいさつ運動」と「学校周辺の美化活動」だ。

毎朝 7 時半に全校生徒と全教職員が道路脇に立ち、通勤や通学で通る住民にあいさつする。始めた当初は、生徒も住民も互いにぎこちなかったが、十数年を経た現在では、笑顔であいさつを交わす朝の風物詩に育った。あいさつ運動後は、学校周辺の美化活動にも励む。同校は、フェリー乗り場に近く、伊平屋島の玄関口にあたる場所なので、訪れた観光客の第一印象を良くする上でも重要な役割を果たしている。

また、月初めの一週間は、村内放送で生徒が住民へ協力を呼びかけ、あいさつと美化活動を地域ぐるみで行う環境づくりにも取り組む。その結果、世代間を超えた交流が活発化。漂着ごみが流れ着く海岸では、住民と生徒が清掃を行い、共に汗を流す。さらに、島のシンボルである琉球松「念頭平松」の整備を地域団体と実施している。

こうしたボランティア活動を記録に残し、地域や社会の課題に向き合おうと昨年、導入したのが「SDGs パスポート」だ。自ら考え行動するボランティア活動にはポイントが付与される仕組みで、30 回達成すると、沖縄県ユネスコ協会から表彰される。同校では 2024 年度に 6 名が受賞、地域内外での活動が評価された。中でも注目を集めたのが、部活遠征先の宿泊ホテル周辺で自主的に行う清掃。あいさつや清掃が定着している生徒は、島を離れた先々でも率先して実施する。

同校の部育成会会長の安里（あさと）雄介さんは、「**生徒の朝の元気なあいさつにパワーをもらえると感謝する大人は多く、彼らに恩返しがしたいと島の複数の企業が部活のユニフォームを寄付してくれました。地域の絆を象徴するエピソードです**」と手応えを実感する。

伊平屋島にはおもてなしの心を表す「いへやじゅうてー」という言葉がある。限りある資源を分かち合い、相手に尽くす島独自の文化は、協力を惜しまない住民と、地域の役に立ちたい生徒の熱意が深くつながりながら、連綿と受け継がれていく。

沖縄県　伊平屋村立伊平屋（いへや）中学校

学校長：松本　優一郎（まつもと　ゆういちろう）
生徒数：32 名（2025 年 11 月末現在）
住所：沖縄県島尻郡伊平屋村字我喜屋 241 番地
電話：0980-46-2006
アクセス：伊平屋島フェリーターミナルから徒歩約 5 分

上：伊平屋ブルーと称される透明な海と手つかずの自然が残る伊平屋島、2 左：全校で毎朝行う地域へのあいさつ運動、2 右：住民と漂着ごみの回収に励む生徒、3 左：部活の遠征先のホテル周辺で自主的に清掃、3 右：島の企業が寄付したユニフォームを着用して試合に挑む、下：「いへやじゅうてー」が連綿と受け継がれる